キャラクター名
シュテル・マシーネ

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハィロゥ モルフェウス	ワークス	工作員	カヴァー	フリーター
オプショナル		年齢	27	性別	女
覚醒	無知	衝動	吸血	初期侵食率	32 %
出自	名家の生まれ	経験	記憶喪失	邂逅	友人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	1	0	0			1
感覚	5	1	3			9
精神	1	0	0			1
社会	1	0	0	1		2

HP	23
行動値	19
(非装備時)	19
戦闘移動	24
全力移動	48

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	2		ＲＣ			交渉	1	
回避	1		知覚	1		意志			調達	4	
運転：			芸術：			知識：			情報：軍事噂話	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ボルトアクションライフル	射撃	9r+2	0	8		マイナー消費で命中判定の達成値+5
多重多角貫通射撃-マルチ・ポリゴン・ピアッシング-	射撃	14r+2		8+9+15		エフェクト全開放。侵蝕+16。装甲貫通
多重多角射撃-マルチ・ポリゴン-	射撃	14r+2		8+15		エンハイ全開放+カスタマ。侵蝕+12
貫通射撃-ピアッシング-	射撃	14r+2		8+9		モル全開放+コンセ指天眼。侵蝕+12。装甲貫通

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
カジュアル	
携帯電話	
ボルトアクションライフル常備化	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
父親	P 遺志	N 嫌気		
記憶の中の誰か	P 親近感	N 疎外感		
光使い	P	N		
	P 感服	N 不安		
	P 庇護	N 不安		
	P 友情	N 嫉妬		
	P 尽力	N 劣等感		

最大財産P: 12	残り財産P： 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
カスタマイズ	1	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果： 組み合わせた判定のダイスを+LV個する。								
クリスタライズ	3	4	メジャー	-	-	対決	100	
効果： 組み合わせた攻撃の攻撃力を+［LV×3］し、装甲を無視する。シナリオ3回。								
マスヴィジョン	3	4	メジャー	-	-	対決	100	
効果： 組み合わせた攻撃の攻撃力を+［LV×5］する。シナリオ3回。								
光の指先	2	2	ﾒｼﾞｬｰ/ﾘｱｸｼｮﾝ	-	-	-	Dロイス	
効果： 組み合わせた判定のダイスを+［LV+2］個する。								
コンセントレイト：エンジェルハィロゥ	3	2	メジャー	-	-	対決	-	
効果： C値-LV(下限7)								
天からの眼	1	2	ﾒｼﾞｬｰ/ﾘｱｸｼｮﾝ	-	-	対決	-	
効果： 組み合わせた判定のダイスを+LV個する。								
ウサギの耳	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果： 聴覚強化。必要なら〈知覚〉判定。								
天使の外套	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果： 外見上書き。〈知覚〉対決。								
モルフェウスイージーのなにか	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

記憶は、奪われた。
奪われたのは、自分のすべて。
失ったのは、感情の起伏。

気がつくと、目の前には満天の星空。
身につけているのは、元は上質であっただろうボロボロの衣服。
ここは、森のなかの小さな広場だろうか。
覚えているのは【自身についての記憶がナニカに奪われた】、【影だけとなった誰か】、【覚えていないお父様との大切な約束】
記憶を失った彼女が初めて持った強い意志は、生きねばならないということ。
そして彼女は歩き出した…生きて、奪われた記憶のすべてを取り戻すためにーーー

経験点37未使用

「……記憶…？…真っ黒な誰かの事がわかれば…後は…どうでもいい…かな……」

直感に従った結果彼女がたどり着いた場所にいたのは傷付きながらも健在な異形の怪物と、ソレに食われる寸前の哀れな人間だった。
突然の闖入者に時が止まったように静まり返るその場所で彼女は考えた。
生きていくにはお金が必要→しかし名前すら覚えていない自分に仕事ができるだろうか→目の前にピンチの大人→解決？
記憶を奪われてなお本能に刻まれた力を行使し、隙だらけの怪物を穿つ。
音を立てて崩れ落ちる怪物には目もくれず助けた人間に感情のない声で自身の境遇を淡々と説明した彼女は、そうして保護と仕事と名前を手に入れた。